

マメ科 シャジクソウ属

# コメツブツメクサ (米粒詰草)

*Trifolium dubium* Sibth.

## 自生環境

芝地、土手、荒地 など

## 原産地

ヨーロッパ～西アジア

## 予想される被害

駆逐



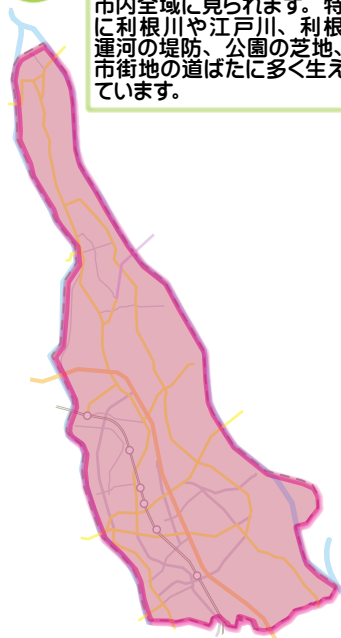
小さな草ですが、まるでマットを広げたかのようにびっしりと広がる傾向があります。そのため同じような環境を好む在来植物の生育場所を奪ってしまう可能性があります。

## 特徴

- ☆ 日当たりのよい乾燥した場所を好む 1 年草です。草丈は 10 ～ 30cm ほどですが、株元から盛んに枝分かれをします。また、多数の株がびっしりと密集するように生える傾向があり、その姿はまるでマットを広げたかのように見えます。
- ☆ 春から夏にかけて、黄色い花を次々と咲かせます。花は 5 ～ 20 個ずつ丸く集まってつき、直径 1cm 程度の「黄色い花の球」となります。これがまるで米粒のように見えることが名前の由来となっています。そのほか、コゴメツメクサ、キバナツメクサなどの別名もあります。
- ☆ 国内では 1935 年に赤羽（東京都）の荒川で確認されたものが初記録と考えられています。

## 市内の分布状況

市内全域に見られます。特に利根川や江戸川、利根運河の堤防、公園の芝地、市街地の道ばたに多く生えています。



## タネはどこにできる？

コメツブツメクサの花は、咲き終わると「干からびた残骸」のようになって、いつまで経っても結実しないように見えます。じつはこの仲間の果実には、枯れた花びらに包まれながら成熟していくという特徴があります。そのため、花びらの残骸部分をそつとめくってみると、ちゃんと中に小さな果実が育っているのを確認できます。果実は成熟すると割れて、中から小さなタネがこぼれ落ちます。



いくつかの花が  
まるく集まって咲く



花の後は  
茶色く  
枯れた  
花びらが  
目立つ



中から取り出したタネ

枯れた花びらの中  
でタネが育つ



マメ科植物によく見られる  
蝶形花という  
かたちの花



果実は枯れた  
花びらに包まれる  
ようにして育つ



葉は 3 枚 1 組で、  
クローバーを  
小さくしたような姿



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

